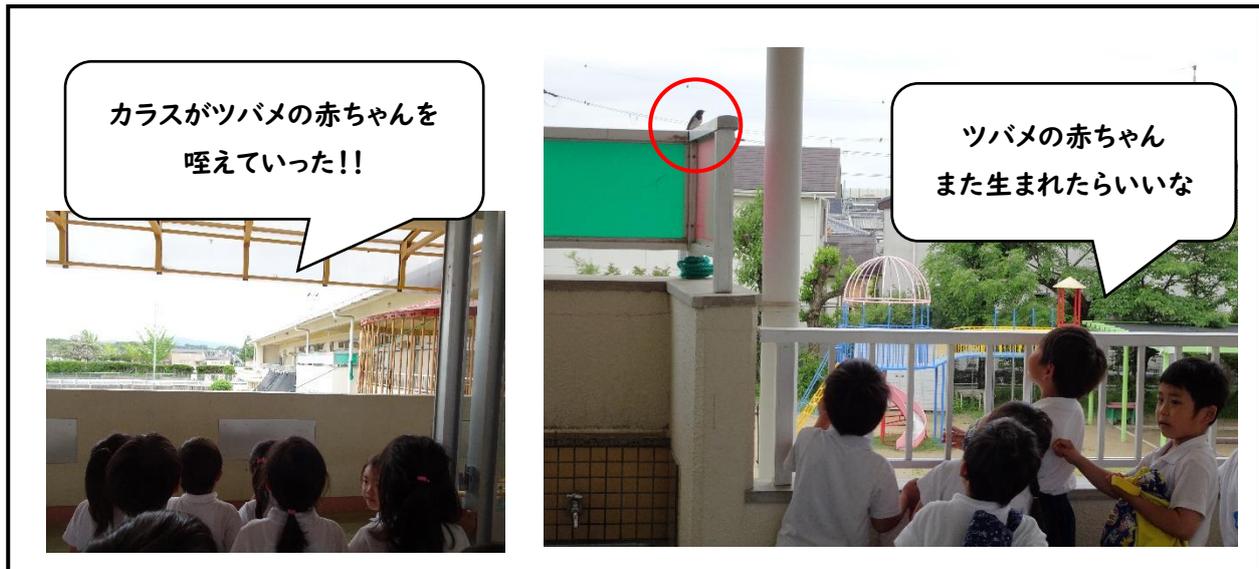


『ツバメの赤ちゃんは…?』 5歳児 5月 伏見こども園



エピソード

4月中旬に園舎の軒下にツバメの巣ができていたことに気づき、何度も見に行き、日に日に大きくなるツバメのひなが顔を出すことを楽しみにしていました。

5月のある日、ツバメの巣に向かってカラスが猛スピードで飛んできて、ツバメのひなを啜って飛んで行ってしまいました。その場面を見た数人の子ども達が「カラスが赤ちゃん連れて行った!」「かわいそう!」とみんなに知らせると「まだ赤ちゃんいて?」「前は4羽いたよ」とツバメのことを心配し始めました。巣を見に行くと、今まで顔を出していたひなを見ることができませんでした。保育者はみんなで話し合う時間をもち、子ども達の思いを聞いてみました。「まだ赤ちゃんなのにかわいそう」「食べられちゃったのかな」「でもカラスも食べないと生きていけないから仕方ない」「カラスにエサ置いとく?でも人がおそわれちゃうか」と、感じたことや考えたことを話していました。保育者が「みんなが元気に過ごすための食べ物も生き物の命をもらってるからね」と話をすると、「そうやんな」「ツバメはかわいそう、でも、カラスも生きるために食べる」「難しい」と子ども達なりにいろいろなことを感じていました。

飛んでいるツバメを見ると、「また赤ちゃん生まれるといいな」と話している子ども達です。

保育者の思い

・ツバメのひなが顔を出しているところを写真に撮ってみんなで見たり、ツバメの絵本を見たりすることで、関心を深めてほしいと思いました。

・カラスがツバメのひなを啜って飛んでいく姿は衝撃的でしたが、子ども達が命に向き合う機会だと思い、クラスで話し合う時間を持ちました。

・ツバメのことを考え「かわいそう」という言葉は予想していたが、「カラスも食べないと生きていけない」という言葉が出てきたことで、子ども達の中で、生きることと命をもらうことがつながっているのかなと感じました。

・話し合いの中で、答えを見つけるのではなく、それぞれの感じ方があることや結論が出ないこともあるということを感じてほしいと思いました。

・ツバメに親しみをを感じる気持ちは変わらず、ツバメが飛んでいる様子を見て、ひなのことを考える姿を大切にしたいと思いました。

子どもの育ちや学び

・ツバメの成長を楽しみにしたり、絵本や図鑑で調べたりする姿がありました。

・一つの視点からではなく、ツバメ、カラス、自分達、それぞれの視点から気持ちや命について考えていました。

・親ツバメを見てひなのことを思ったり、命のつながりを感じたりしていました。

家庭だったら・・・

・生き物の成長を見たり飼育したりする中で命と向き合うことが必ず出てきます。そのときの子どもの気持ちや感じたことに耳を傾け、その気持ちに寄り添い、おうちの方が感じたこともぜひ伝えてあげてください。